

P23b 大質量星形成領域 HH80/81 領域の近赤外撮像観測

松柳 育子、伊藤 洋一（神戸大自然科学）、中島 康（国立天文台）、長田 哲也（名古屋大理）、向井 正（神戸大自然科学）

南天の星形成領域である HH80/81 領域の、近赤外測光観測の結果について報告する。

HH80/81 は、いて座の暗黒星雲 L291 の端に位置する非常に明るい Herbig-Haro 天体である。この HH 天体は、距離 1.7 kpc で $20,000L_{sun}$ もの明るさを持つ重い IRAS 源に起因しており、さらにこの天体を中心として HH80/81 と対称な位置には電波源 HH80 north が存在する。HH80 north から HH80/81 までの広がりには 5.3 pc にわたり、これまで発見された HH 天体の中で最大級のもので、中心星のそばには HII 領域や 赤外のクラスターが見つまっていることから、この領域は非常に活発な星形成領域であると考えられる。また、outflow は視線方向とほぼ垂直に伸びており、この領域での星形成を誘発しているという報告もされていることから、HH80/81 領域はトリガー星形成を見る上でも大変興味深い。

我々は、昨年 7 月に南アフリカ天文台の 1.4m 望遠鏡と SIRIUS を用いて、HH complex を網羅する約 120 平方分の領域をサーベイした。積分時間は 1 視野あたり 30 分で、限界等級は K_s で 17 等程度である。本講演では HH80/81 領域における YSOs の分布や luminosity function について議論する。